

大凧 便り



第224号

ブログ発信中 <http://oodakomuseum.shiga-saku.net/>

編集・発行 世界凧博物館東近江大凧会館 令和7年1月23日発行

〒527-0025 滋賀県東近江市八日市東本町3番5号

TEL: 0748-23-0081 FAX: 0748-23-1860

IP: 050-8034-1140

開館時間: 9時~17時 休館日: 水曜日、第4火曜日、祝日の翌日

平成18年度から指定管理者制度により(公財)東近江市地域振興事業団が管理しています。

毎月第3日曜日は「家族ふれあいサンデー」 東近江市民の方は、「ふれあいカード」をお持ちの上、家族でお越し下さい

祝新成人20畳敷大凧「翔べ！未来へ！」飛揚



前日の雪が残り、グラウンドがかなり泥状になっており、今年は大凧保存会員で飛揚しました。風がほとんどない中で4度挑戦しましたが、ふわりとしか揚がりませんでした。今回の大凧の絵柄は、巳(み)年にちなんで上部に蛇を二匹描き、下部に「翔」の文字、背景には瑞雲とともに描かれた稲妻文様があしらわれており、『翔べ！未来(巳雷)へ』という意味になります。二十歳を迎えられたみなさんに、無限の可能性のある未来に向かって羽ばたいてほしいというメッセージです。



~たくさんのご参加ありがとうございました。~

新春凧揚げ大会を開催しました。



新しい年を迎え、早くも1ヵ月が過ぎようとしていますね。大

凧会館は1月3日から開館しましたが、今年は大凧作りに来館くださるお子さんが非常に多く、とても賑やかで楽しい年明けとなりました。ありがとうございます。

さて、お正月と言えば「凧揚げ」ですが、1月12日(日)は、東近江市の成人式でした。昨年と同様に新成人を祝う「祝新成人20畳敷大凧揚げ」に合わせて、「新春凧揚げ大会」を聖徳中学校グラウンドで開催しました。

今年、朝から雪が降っており開催できるのか心配しましたが、天気は回復しました。先着50名様の大凧作り体験も、すぐに定員に達し、たくさんの方に来場いただきました。

朝に降っていた雪が溶けて、グラウンドには水たまりができ、足元が悪い中ですが、皆さん凧揚げを楽しんでおられました。大凧会館で開催した巳の大凧作り教室で作った凧や星の凧もよく揚がっていました。小学生以下のお子さんには、大型サイコロを振ってもらい、出た目の数のみかんをプレゼントするコーナーもあり、「1」が出てしまったお子さんには、みかん一つとキャラクター凧をプレゼントしましたが、みかんより人気がありました(笑) 東近江大凧保存会特製の具沢山豚汁の振る舞いもあり、寒空の下で食べる温かい豚汁はとっても美味しかったそうです。足元が悪い中、ご参加いただき、ありがとうございました。来年は良い天気になりますように！今から願っています！



大凧を弓なりにして、大凧の前で記念撮影



飛揚祈願 竜頭に御神酒をかけます。

製作から飛揚までは、大凧会館ブログをご覧ください。

<https://oodakomuseum.shiga-saku.net/c65655.html>

**＝東近江市制20周年「20畳敷大凧」＝
絵柄（判じもん）は「奉祝 東近江」**



東近江大凧は国や地方の慶祝の度に大凧を揚げてお祝いをしています。例えば、皇太子さまが御成婚されたとき、昭和56年に滋賀県で開催された国体の祝い、大阪であった万博のお祝い、そして東近江市の誕生、10周年とお祝いで揚げてきました。

今年、令和7年2月11日に、東近江市が誕生して20年を迎えます。この大きな節目を記念し、東近江市の伝統文化である東近江大凧を製作し飛揚することとなりました。



製作初日の1月16日(木)、午後7時30分から東近江大凧会館別館(八日市東本町)で東近江大凧保存会、東近江市から20人が出席し、大凧製作の始まりの儀式である「のりつけ式」が行われました。



のりつけ式では、最初大凧の絵柄が発表されました。大凧の絵柄は、上部に鳳凰、下部に「祝」の文字、中央に「東近江」を配し、「奉祝 東近江」となり、お祝いの大凧を製作して飛揚することで、未来に向けて思いを馳せ、東近江市の益々の発展を祈念するものです。文字の「祝」と「東近江」は小椋正清東近江市長に腕を振るっていただきました。



図柄発表後、山田敏一東近江大凧保存会会長と南川喜代和東近江市副市長が二人一組になり、大凧に使用する和紙を継ぎ合わせる「のりつけの儀」を行いました。乾杯、製作日程の説明後、初日の作業である「紙継ぎ」が行われ、20畳サイズの和紙が出来上がりました。

これから約1か月間にわたって、大凧作りが行われ、2月8日(土)に完成予定です。

この大凧の飛揚は、東近江市制20周年の記念式典当日である令和7年2月11日(火・祝)に東近江市立聖徳中学校グラウンドで飛揚します。製作の様子は大凧会館ブログをご覧ください。

<https://oodakomuseum.shiga-saku.net/c65849.html>

**迫力満点！鬼が描かれた凧を展示
＝鬼退治！！「鬼の凧展」＝**

開催期間 1月24日(金)～2月3日(月)
開館時間 午前9時～午後5時
(ただし、入館は午後4時30分まで)
期間中の休館日 水曜日 1月28日
入館料 一般：300円 小・中学生：150円



今年は2月2日が「節分」です。「鬼は外、福は内」といながら豆をまきましたね。「節分」は年1回ではなく、実は年4回もあります。季節の変わる前日を「節分」と言います。季節の変わり目には邪気が生じると考えられており、その鬼を追い払い、無病息災を祈る儀式として文武天皇の頃に宮中ではじめられました。

さて、東近江大凧会館では令和7年1月24日(金)から2月3日(月)まで、日本各地の鬼の絵が描かれた凧を展示する恒例の「鬼の凧展」を実施いたします。京都の大江山で源頼光(みなもとのらいこう)が鬼を退治する絵柄の6畳の凧(京都府)や、涙を流す紅白の房が印象的な「鬼ようず」(山口県見島)、鬼が武者の兜に噛みついた鬼伝説を描いた長崎県杵岐地方の「鬼凧」(長崎県)、鬼が兜を啜っている絵柄の「パラモン」(長崎県)などを展示しています。

見応えの有る大きな凧バックに記念撮影もしていただけます。ご来館お待ちしております。



＝「巳の絵をかいて大空に揚げよう」開催＝

今年も雪のないお正月でした。この数年は本当に雪が少ないように思います。さて、大凧会館ではお正月明けの1月5日(日)に干支の巳の絵を描く、「親子凧作り教室～巳の絵をかいて大空に揚げよう～」を開催しました。会館スタッフが用意した3種類の



「巳」の絵柄から好きな物を選んで紙に写し、色付けをします。六角形の凧絵が描けたら所定の箇所に接着剤を使って竹骨を取り付けていきます。また、紙と竹の交点を糸で結び留めて完成です。但し凧を揚げる時は「そり」が大事。紙から少しはみ出した横の竹2本に「反り糸」をまきつけるのが皆さん大変そうでした。完成した凧は思い思いの色をつけてオリジナルの巳の凧となり、皆さん満足そうでした。新春の大空に舞い揚がる凧は今年の皆さんの夢をのせています。

＝巳の張り子 絵付け教室＝

今年も干支の張り子絵付け教室を開催しました。張り子は埼玉県春日部張り子です。真っ白な巳の張り子に見本を見ながら慎重に絵付けをします。オリジナルに描く参加者もあり、色んな巳の張り子が完成しました。



2025年2月の予定＝

- 3日(月)まで 「鬼退治！！鬼の凧展」
- 8日(土)～4月6日(日) 福よせ雛
- 11日(火) 東近江市制20周年記念 東近江大凧飛揚
- 16日(日) 家族ふれあいサンデー
- 22日(土) わくわくコラボ村
- 2月休館日：2/5・2/12・2/19・2/25・2/26